
ユニゾンダイバー

零夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

裏の町。(前書き)

ユニゾンダイバー。それは、
危険な仕事。普通なら学生は、
巻き込まれないのだが・

裏の町。

僕は、 龍ヶ崎^{りゅうがさき} 玲袈^{れいか} 女みたいな名前だけど。
これでも男です。

こんな僕が。あんなのに巻き込まれるわけ。

最初は、無いと思った。

けど。それは、違った。

現実では、ユニゾン世界からの町の破壊、

殺し。などが堪えない。表は、いい町だけど。裏側は、ユニゾン世界。

そして。裏側にあるその世界が。本当の姿らしい。

まったく。最悪なところに生まれた僕だが。

親は、今から20年以上前の。ユニゾン戦争で負けた。この世界には、

二つの社がある。それは、僕にもわからない。

黒い虫。(前書き)

「ちっ・っ。やっぱりユニゾン世界じゃないと。力が制限される」
僕は、普通に授業を受けていた。そして。
授業が終わる。少し前の事だ。

黒い虫。

玲袈「授業まだつづくんだね。僕は、もう飽きたよ」

隣の生徒「そんなこと言ったって。仕方ないでしょ？先生が言うんだから」

僕は、龍ヶ崎 玲袈普通の学生。

そう。授業が嫌いな男だ。

玲袈「僕は、人と関わるのがのが嫌いなんだよね。」

隣の生徒「わかる。」関わるのが嫌な僕は、クラスの人の名前ですら、

全部覚えてない。

そんな時である

生徒SD「んっ？なんだあれ？こっちに向かってくるぞ？」

玲袈「なんだ？黒い虫？はっ！みんな伏せた方が身のためかもよ？」

そのあと。あのガラスが割れる音がして。

その音とともに生徒たちが。死体にかわっていく

僕は、先生の机の下に転がりこむ

玲袈「くっ．．はあ！」

なんとか間に合ったようだ。

けど、みんな死んでいく。

僕の友達も先生もみんな死んでいく

玲袈「ずいぶん好き勝手。してくれるよね？いくよ？僕の持ちえて
いる力は、闇。」

さて。闇よ．．」

僕の周りを黒い物が巻く。

玲袈「さてと．．」

目の前に一匹飛んで来る。

それを僕は、握りつぶす。

「グシャ．．」

玲袈「さて？次は、？」

黒い虫が無数に負いかけてくる

玲袈「く。まさかこんなにはやいのか？」

目の前に一匹。それを僕は、

ばくてんからのジャンプでかわす。けど机にぶつかる

玲袈「ちっ．．邪魔だよ！！またきた。どうする？右にパンチしそいつを利用し。

ダークデカキールでも撃つか？

それとも。左に回って。スキルバインバイバー．．」

ダークデカキールは、槍のような物を

すごい速さで投げる技

スキルバインバイバーは、僕があの子の間隙について

パンチを何回もし。そして、武器に力を宿らせ

殺す。

荒技だけど。数が多すぎる。

玲袈「でも、まてよ？ここは、理科室。しかも硫酸が置いてあるその部屋に

僕は、いる。だったら！！

硫酸を取りに走る。

そして、あの机の下にスライディングそこから投げる。

玲袈「うおおおおおお！！間に合え。くっやっぱりユニゾン世界じゃないと、力が制限される。

よし！！はあ！！」

スライディングクリア。

玲袈「さて、食らえ！！」

黒い虫「グキヤアアアア」

玲袈「よし。半分死んだね。」

??「きゃっ！！多すぎ！！」

玲袈「あの声．．」

そのとき。向こうの机に

光が現れる。

玲袈「ちっ．．光かよ」

??「君、あの中に入りなさい」

さつき多すぎ!!っと言った女だ。

玲袈「僕は、闇．．光は、嫌いなんだ。」

??「力を一度、といて。入るのよ」

玲袈「だとして．．君は、？」

??「私を甘く見るんじゃないよ。大丈夫に決まってるだろ？」

玲袈「わかったよ」

??「私が、サポートするわ。」

玲袈「結構です。一人で入る」

??「異性がいいのね?OKじゃあ、せいぜい死ぬなよ?」

僕は、走り出す。

玲袈「はあ．．はあ。。僕を走らせるなんて。あの人なんなんだ?」

後ろから。虫が追いかけてくる。

虫をかわしながら行く。

右の虫 回避。

左、回避。

よし。真ん中があいた。

と思うと、またつめはじめた。

僕は、最終手段として。

突っ込む事を理解。

玲袈「この距離なら．．いけるね?はああああああああ!!」

!

虫がつめて来るのをすごい速さで。回避し。

机の前。

玲袈「いまだ!!ジャンプ!!」

成功したらしい。

その先は、同じ町だ。

まさかここがユニゾン世界の理科室．．なのか?

next
「遅かったな・玲袈。」

黒い虫。(後書き)

いきなり現れた。

なぞの男と女。

こいつらは、味方？それとも、敵？

まあ、僕は、どっちでもいいけど。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3097y/>

ユニゾンダイバー

2011年11月8日03時12分発行